

## 今回のおすすめメニュー



NO IMAGE

### 『僕は上手にしゃべれない』

椎野 直弥 著 / ポプラ社

所蔵館:中央館 / 請求記号:913シ

#### ちょっとあ・じ・み

柏崎悠太。中学校1年生。入学式の日自己紹介は、保健室へ。本当は体調が悪いわけではない…自己紹介から逃げたかったから。

悠太は吃音の悩みを抱えている。言いたい言葉はあるのに、それが声にならない。「おはよう」というとき、最初の「お」の音がでてこない。無理に言えば「お、お、お、おはよう」とつかえてしまう。

友達を作るのも苦労して、笑われたり、からかわれたりして、辛い毎日…。そんなときもらった部活勧誘のチラシ。

#### 『放送部』

『部員募集中です。しゃべることが苦手な人でも大歓迎。

発音の方法など丁寧に教えます。

練習すれば、あなたも必ず上手にはっきりと声を出せるようになります。』

放送部のチラシを受け取った悠太は「人と普通にしゃべれたら、どんなに楽しいだろう」と思いながらも一歩踏み出せずにいます。

これまで、いろんなことをあきらめて我慢してきた悠太は「変わりたい」と思いながらも、失敗したくないと伝えることから逃げてしまっていました。でも、中学生になって、新しい出会いがあって、少しずつ変化していきます。この本では、吃音のしゃべり方をそのままに書いています。読みにくいところもありますが、悠太の息苦しさ、恥ずかしさ、みじめな気持ちが伝わり、苦しさがよく伝わります。まだ治療法が確立されてないという吃音ですが、悠太の伝えたいこと…読んでみてくださいね。

#### 関連メニュー



NO IMAGE

『言葉がすらすらでないんだ 吃音』

(わかって私のハンディキャップ 4)

スー・コトレル 著 / 大月書店

所蔵館:勝連 / 496コ

悠太のように、言葉がすらすらでなくて、つまってしまうことを「どもる」とか「吃音」とよびます。「吃音」がでてしまったとき、どんな気持ちでいるのか。また、周りの人がどう接したらよいかも紹介しています。